

子どもたちが紡ぐ伝統

かつぎまんどろう

川額地区では9月28・29日、森下地区では9月30日・10月1日の二日間、五穀豊じょうを祈る豊年踊りが行われる。養蚕の神とされている諏訪大明神を祭るこの行事、諏訪祭としては他の地方では見られない、かつぎまんどろうという独特の風習がある。養蚕が盛んだった江戸時代後期に始まったとされる伝統の行事は、子どもたちにより、今も紡がれている。



八木節の音色にのってやぐらをまわる七回めぐり(大森神社)

江戸時代、村内のいたる地域で養蚕が盛んに行われ、収入の多くを養蚕経営に頼っていました。そのため、養蚕の神とされる諏訪大明神の信仰が厚く、養蚕農家が見られなくなった現在も、川額・森下両地区では諏訪祭として豊年踊りが行われ、諏訪信仰が息づいています。

川額・森下地区で行われる豊年踊りは、それぞれ区会や地区の青年団が中心となつて毎年行われる秋の恒例行事として、八幡会(川額地区)や八木節保存会(森下地区)のおはやしに乗って八木節が披露されるほか、青年団や婦人会、若妻会や育成会が手踊りを踊り、にぎわいを見せます。この祭りの中で飾られるのが「かつぎまんどろう」です。

かつぎまんどろうは、心棒と呼ばれる一本の柱に人形を乗せ、さまざまな飾り付けをしたもので、高さはおよそ3メートル、重さはおよそ40キロにもなり、これを一人で担ぎます。制作するのは中学生の男子。祭りの1か月前から準備がはじまります。

完成したまんどろうは、「宵祭り」「本日(ほんび)」と二日間行われる祭りで境内に飾られ、「本日」には「七回めぐり」

が行われます。七回めぐりは祭りを締めくくる神事で、八木節のおはよしのなか中学生がまんどろうを担ぎ、ぶつけ合いながらやぐらの周りをまわります。このぶつけ合うさまを「つつかける」といい、「つつかけまんどろう」という人もいます。

現在では、川額地区で上・下の2基、森下地区で上・中・下の3基、合計5基のかつぎまんどろうが作られ、祭りの日にそれぞれ川額八幡宮、森下大森神社に飾られます。昭和初期までは椽久保地区でもかつぎまんどろうを飾っていました。

江戸時代後期にはじまったかつぎまんどろう

なぜかつぎまんどろうが行われるようになったのか、残念ながら参考となる文献などが少なく、確かなものは残されていないです。

明治12年生まれのお古老が語った話によると、あるとき、古老の祖父が夏祭り(祇園祭)の山車の飾り付けをまねて担げるような「まんどろう」を作り、秋の諏訪祭に自宅の庭に飾り立てたところ、近所の子どもたちが面白半分森下の宿通りを担ぎ歩きました。こ

それが森下中の話題となり、秋の諏訪祭の当日に神社の境内に飾ろうと決まり、大人たちが作ったのが始まりだといえます。その時作られたまんどろは、大人が二人がかりでやつと担げるもので、「かざりまんどろ」と呼ばれていました。

この話を裏付けるものとして、それぞれの地区で夏祭りにひいた山車とかつぎまんどろの人形を乗せる高欄が同じ形状をしていること、かつぎまんどろのおはやしが夏祭り（祇園祭）と同じ祇園ばやしであることなど、かつぎまんどろと夏祭りの関連性が多く、信ぴょう性が高いものと思われまます。

また、当時は夏祭りの山車のことを「引きまんどろ」と呼んでおり、「引く」に対して、「担ぐ」まんどろとして「かつぎまんどろ」と呼ばれるようになったと考えられています。

戦前のかつぎまんどろ

明治初期、子どもたちがひな人形や大根・ナスなどの野菜を材料にしておもちゃのかつぎまんどろを作って遊んでいるところを見た大人たちが、子どもたちの自主的な祭りに

してはどうかと、かつぎまんどろの一切を子どもたちの手に委ねることにしました。

このころから、かつぎまんどろに携われるのは尋常高等小学校の男子に限られ、高等科（現在の中学校にあたる）子どもたちを中心に自主的に運営を行いました。

戦前のかつぎまんどろでも重要だったことは、人形をはじめ、飾り付けの優劣でした。飾りつける人形も、現在の武者人形だけでなく、神様やひよつとなど多彩で、仕掛けを施して動く人形もあったといえます。まんどろを担ぐ人は各組とも特定の大人で、七回めぐりは、今のようにぶつけ合うことなく、鳥居をくぐって境内全体を7回まわりました。

現在のかつぎまんどろ

戦後になると、それまで大人が担いでいた七回めぐりも子どもたちが担ぐようになりました。

七回めぐりの途中、子どもたちはまんどろの重さに耐えかねて倒してしまう。そうしているうちに後続のまんどろが来てぶつけ合うようになり、現在行われている七回めぐりのかたちになりました。



ちょうちんを先頭に境内にかつぎまんどろが入場（川額八幡宮）



緊迫したつかげの瞬間（川額八幡宮）



ライトに浮かび上がる八幡会の八木節（川額八幡宮）



拝殿前で行う締め儀式は黒山の人だかりに（大森神社）



婦人会・若妻会が踊りを盛り上げる（大森神社）



境内に飾られるかつぎまんどろ（大森神社）